

海外医療研修コース実習・演習

International Student Exchange Course

コース科目 5年／前・後期 12単位 選択必修科目

科目責任者 赤沢 学(公衆衛生・疫学研究室)

■教育目的

海外(カナダ、英国、タイなど)の医療に関わる薬剤師の業務と責任を理解し、国際化した社会状況に対応できる薬剤師になるため、国内での実習では得ることが出来ない知識、技能、態度を、海外での実習を通して習得する。【卒業認定・学位授与：YD-⑤、YD-⑥】

■学習到達目標

1. 日本の医療制度、薬剤師教育、薬剤師の役割を英語で説明できる。
2. 海外の医療制度並びに薬剤師教育を理解する。
3. 海外の薬局並びに病院薬剤師の業務と責任を理解する。
4. 海外の薬学生と交流することで、医療人としての共通意識を深める。
5. 英語によるコミュニケーション力を高める。

■準備学習(予習・復習)

予習：日本の医療制度・薬剤師の役割を英語で説明出来るよう準備しておく。

復習：実習内容をプレゼンテーションできるよう、研修期間中に記録しておく。帰国後、英語検定を(TOEIC)受ける。

■授業形態

課題解決型学習(外部機関との連携あり)、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	事前学習・演習	医療英語、海外の医療制度、薬剤師教育の事前学習・調査	
2~14	実習	受入大学(カナダ・アルバータ大学薬学部、イギリス・ハートフォードシャー大学薬学部、タイ・チュラーロンコン大学薬学部、タイ・マヒドン大学薬学部)によるオリエンテーションを受けた後に、学内講義やワークショップに参加、地域薬局、病院薬剤部の見学や実務体験、コースワークのプレゼンテーションなどを行う。	
15	事後学習	各自、実習報告書を作成し提出する。また、その内容をグループで報告する。更に、英語能力を確認するために英語検定(TOEIC)を受験する。	

■授業分担者

赤沢 学(責任者)、樋口 和宏、酒井 良子、石橋 賢一、榎山 暁史、前田 英紀、学外講師

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

事前演習および研修中の出席(30%)、レポート提出・報告会(20%)、英語検定の成績(50%)を総合的に判断し評価する。

■教科書

特に指定なし。

■参考書

A Writer's Reference (英語), Bedford; 9th ed.

The Elements of Style (英語), Classic Edition (2018)

Drugs in Use: Case Studies for Pharmacists and Prescribers (英語)

<実務実習支援課にて貸し出し可能>

■その他

コースを履修するために必要とされる最低限の語学(英語)能力は、事前に各自が TOEFL/TOEIC を受験し、基準点(毎年公示)に達していることが望ましい。

海外研修のためにトビタテ留学 JAPAN などの奨学金申請を希望する学生には学生支援課でサポートを行うので、希望者は相談すること。